

— 謹賀新年 —

『2018年 戌年』

実が落ちても、木を守り次へ繋げる1年へ!



新年あけましておめでとうございます。健やかに新年をお迎えのことと存じます。旧年中は公私ともに格別のご高配・ご支援・ご協力を頂き心から感謝申し上げます。

復興道半ば

さて、熊本地震からやがて2年を迎えます。全国からの支援や被災者の皆さんの踏ん張りで、一定の復興の兆し・道筋は見えてきました。しかし、未だに仮設住宅では、熊本市だけで1万世帯を超える方々が不安を抱え、不自由な生活を送られています。下記の復旧状況にあるように、災害公営住宅等の準備は進められていますが、最後の一人まで被災者に寄り添った取り組みを進めていかなければなりません。



■住宅支援の状況

①被災住宅の応急修理	完了件数
応急修理件数	14,665件
②仮設住宅等の提供	入居中戸数
プレハブ仮設住宅	500世帯
みなし仮設住宅(民間賃貸住宅)	9,281世帯
市営住宅	497世帯
その他 ※特定優良賃貸住宅等	74世帯
③災害公営住宅の提供(H31.3完成予定)	提供戸数
【南区】白藤災害公営住宅	76戸
【南区】舞原災害公営住宅	19戸
【中央区】大江災害公営住宅	19戸
【東区】秋津災害公営住宅	約30戸

民進党が消えた衆院選

また昨年は、政治に目を向けると、特定秘密保護法・安全保障法制・共謀罪などの強行採決を行ってきた安倍政権からの脱却をめざし取り組みを進めた1年でありました。10月には「森友・加計疑惑」隠しとも言える

自己都合により、衆議院が突如解散され、第48回衆院選が行われました。私たちは、数の力でだけで議論すらない安倍政権に対峙するために、熊本県内4選挙区において、「熊本1区松野頼久候補」、「熊本4区矢上雅義候補」の必勝を確かなものとすべく、野党共闘の力で対抗していくために、熊本2区・3区からの公認候補を断念してまで取り組んできました。しかし、選挙直前の「希望の党」立ち上げを機に、民進党から公認候補を擁立せず、希望の党へ、そして排除や切り捨ての動きから立憲民主党が立ち上げられ選挙戦が繰り広げられました。

結果、熊本1区で17年間議席を死守してきた松野頼久氏が落選、熊本4区では選挙区で敗れはしたものの比例復活で「矢上雅義代議士」を誕生させることが出来ました。

現在は、衆院選で「消えた民進党」再生に向け、党を挙げて議論を行っていますが、民進党は参議院と地方の議員・党員・サポーターだけであり、無所属で党籍ある衆議院議員はいるものの、国会議論では衆議院に民進党は存在しない状態です。如何に再生を図るのか、別の道を歩むのか、全国幹事長会議では激論が続いています。来年の統一自治体選挙や参院選に大きく影響する「民進党の行方」を早期に国民へお示ししなければならぬと考えます。

成年に込めた思い

さて、明けて成年を迎えましたが、この「成年」には、滅びるを意味し草木が枯れる状態を表しているという見方があるそうですが、実際は「守る」。植物が育っていき、花が咲き、実をつけ食べ頃が過ぎた後、「自分の実を落として本体の木だけは守る」という意味だそうです。「熊本地震からの復興」や「民進党の再生」とう面で見ると、失ったものは大きいですが、それも次へのステップに繋げるための土台はあり、再生・復興から輝く将来を目指さなければならない1年と受け止め、地方から政治の流れを変えていくためにも、本年も全力投球していく覚悟であります。どうぞ本年も宜しくお願ひ申し上げます。

平成29年12月議会報告

昨年11月22日から12月12日の21日間、第4回定例会(12月議会)が開催されました。熊本地震関連での約41億8千万を加え、総額約77億6千万の増額補正予算ならびに30近い条例案を審議し、1件の継続審査を残し、予算・条例案件とも可決成立しました。

特に今議会では、熊本地震からの復旧・復興に向け、県復興基金から配分された約30億円について、熊本市独自の復興基金として、本市が主体的に行う復興予算に充当することとなりました。

また、旧NHK跡地を熊本市が購入することが一般質問の答弁で突如明らかになりました。旧NHK跡地は、熊本城域であり文化的・歴史的にも重要な土地であり、隣接する旧JT跡地を合わせ、公的機関

が所有・管理することは必要であると考えますが問題は予算です。ご承知の通り、今熊本市は熊本地震からの復興が最優先されます。復興事業以外に、現在では桜町花畑再開発、熊本駅前広場の再整備、熊本市市民病院の再建など、巨額な予算を要する事業を抱えています。将来負担もしっかり考慮し、計画ある事業計画が大前提であります。議会でしっかり対応し、市民への説明責任も果たすべきであると考えます。



12月議会は、予算や条例等の本論よりも「女性議員のケジメ」や「女性議員の軽率な行動」が全国に注目されました。

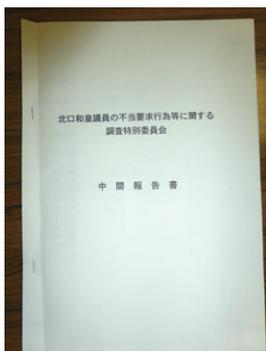
12月議会
番外編

パワハラ女性議員にケジメを

議会ではこれまで、市職員等に対する不当要求行為の詳細について、特別委員会の開催や政治倫理審査会などを通じ、議員としての資質に重大な問題があるとの結論により、これまで2度の議員辞職勧告を決議(政治倫理審査会からも辞職勧告あり)してきましたが、当該の女性議員はそれを認めず、はぐらかす言動を繰り返してきました。

今議会では、あらためて3度目の議員辞職勧告を決議するとともに、速やかに辞職しない場合は、熊本市長として任命している役職(農業委員等)の解任、諸団体(熊本市漁協等)の役職の解任を要求するとともに、議員の兼業禁止行為の調査を行い、懲罰処分(議員除名)を視野に取り組みることとなりました。

今回の対応が最期通告であると考えます。



赤ちゃん抱き議会へ

12月議会開会日、本会議場はいつもの3倍位のTVカメラが入り、赤ちゃんを抱えた女性議員が取り囲まれていました。その女性議員は「議員の育児休職」、「ベビーシッター等の保育者の公費負担」、「議会に託児施設の設置」などを求めているようで、相談したが結果が出ず、強行手段をとったものとされています。

私は、子ども支援や子育て世帯の負担軽減、安心して子育てが出来る環境づくりは、社会全体の大きな課題であり、更に取り組みを進めなければならないと強く思います。しかし、今回の行動は、事前に議会運営委員会といった議会運営を協議する場にちゃんと申し入れ、議論され、その結論に基づいた範囲で行われるべきであり、手続上、大変な問題行動です。開会が40分間遅れましたが、あの状態で開会すれば、会議規則違反により懲罰の対象となるとの事です。

多くの市民からもご意見を頂きながら、子育て支援全体の課題として今後対応して参ります。